



・発行者・
京都障害者
スポーツ振興
会

(京都障害者スポーツ振興会会長に就任あいさつ)

スポーツは「生きる糧」

京都障害者スポーツ振興会
会長 川面 幸男

このたび平成二十年三月の代表者会議で新しく京都障害者スポーツ振興会の会長に選ばれました川面幸男と申します。前会長の内山茂生氏同様よろしく願います。

言う間でもなく前会長の内山茂生氏は八期十六年の長きにわたって会長として振興会を育ててこられ、多くの御功績を残してこられました。本当にご苦労さまでした。特筆すべきことは前会長が常々「京都の障害者スポーツを府民市民の中にも認知していただくことが必要だ」と主張されて、そのために京都府体育協会にも積極的に活動してこられました。その結果全国ではじめて体協に正式加入をしました。これは京都の障害者スポーツの歴史に残る出来事となりました。またそれまで未整備だった組織の確立にも力を注がれ規約の改正、組織の改編等を実施して振興会組織の強化に尽くしてこられました。内山前会長には

今後とも障害者スポーツの発展の為に振興会への変わりぬご支援ご協力をお願いしてまいります。

これまでの京都障害者スポーツ振興会の会長は、設立者で初代会長の芝田徳造氏は陸上競技そして前会長の内山茂生氏はバレーボールと、共に京都におけるスポーツ界の重鎮が会長でした。お二人自身の競技生活と言い、その後の競技団体の運営経験と言い、障害者スポーツの振興をお任せするの何の心配もない経歴の方々のでした。このような素晴らしい先達の後を、私がつつがなく運営することができると本当に不安な毎日ですが、経験豊かな振興会のスタッフやボランティアのご協力を得て、「小さなことからコツコツと」をモットーにして何とか振興会の発展のために貢献できればと思っております。

に、すばらしい発展をしてきています。しかし地域の現場で問題点も次第にはつきりしてきました。かつて、車いすバスケットボールが障害者スポーツのシンボルとして障害者スポーツの牽引者の役割を果たしました。私達が車いすバスケットボール競技を支えたら他のスポーツは連動して発展してききました。多くの事を同時に考えなくてもよい時代でした。しかし今は地域の現場と雖も多様な障害者スポーツ要求に答えながら一つ一つのスポーツ組織を支えねばならないという苦しい時代になっていきます。そこで振興会ではこのような障害者スポーツの多様化に答えるために、振興会組織を競技専門部会制にしました。まだまだ充分な成果はあがってはいませんが私は障害者スポーツの発展の方法はこれしかないとおもっています。そのためには障害者がスポーツをする多様な組織を充実させなければなりません。同好会でも、クラブでも、教室でもよいのです。いろいろなところでサポーターを増やす必要があります。こうして障害児者がスポーツをして当たり前と言う土壌を作り上げることが必要です。華々しくマスコミで取り上げられる障害者のスポーツですが、現実の障害児者の生活場面ではまだまだスポーツとは縁遠いものではないでしょうか。例えば、障害のない子供達は、ほとんどの子どもが有効な余暇の活用をしています。学校や地域で野球、水泳、サッカー等のスポーツをしています。翻

しょうか。学校の授業が終われば直ぐスクールバスで時間をかけての下の校です。みなさんは障害のあることを知っておられますか。スポーツクラブは存在しますが、実際まだまだ少なくありません。障害のある高校生は公式の競技会に出場できるのでしょうか。そしてこのような子供達が大きくなり成人になるのですから、この先は見えてきます。その先の作業所やデイケアに行っている障害者はいくつかスポーツをするのでしょうか。このように考えると私達のやっっている障害者スポーツがたとえ細々とでも、貴重な事業でありその責任を感じざるを得ません。これは「人生の質」にかかわっているからです。振興会の芝田徳造元会長はこのことを「人生は一度きりしかない。スポーツは生きる力」と何回も叫ばれました。ここが私達障害者スポーツ振興会の原点です。私達京都障害者スポーツ振興会の活動は、それでも障害者のスポーツ場を少しずつ増やしてきました。その成果はこれまでの多くのボランティアの汗の結晶でもあるのですが、ここまですべて積み重ねてきた成果をもっと多くの障害者に普及するため、わたし達は点から線へ、線から面へスポーツを拡大していくことが必要です。皆様方のご支援ご協力を切にお願い申し上げます。私の今の思いは、坂本竜馬が言ったと思うことば「たとえそれがドブ河の中でも、倒れる時は前のめりに倒れたい」という思いです。障害者スポーツを少しでも前へ！です。

行事予定	5月	13(火)	丹波障害者スポーツのつどい	丹波自然運動公園	来月のつどいは 6 / 8 第2日曜日
		18(日)	第42回スポーツレクリエーションフェスティバル	丹波自然運動公園	
			障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
	6月	1(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
			第20回京都市障害者体育大会	京都市西京極補助競技場	
			障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
乙訓障害者スポーツのつどい				長岡京市立スポーツセンター	
京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010 http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (3月30日に一部更新)					

スポ振ルネサンス (2)

〜心でつなく活動を〜

京都障害者スポーツ振興会

副会長 水谷 裕

振興会は、前号でも書いたように、誕生して以来、この間、年間に催す事業も、それらに関わって、れるボランティアのスタッフ等も格段に増えました。

振興会が、組織化されるところにも分業化が進み、自分の守備範囲のみを見て、いるだけでよくなり、他人のエリアまで気にしなくても振興会の事業はほとんど消化されていくような仕組みになってしまっているのです。

従って、振興会全体を見なくても済むのです。

こういった状況の中、京都障害者総合スポーツ大会をはじめとする一過性の各種大会のようなイベントが増えるとともに、それらに関わるスタッフばかりが重宝がられ、また、目立っているのが現状で、京都障害者スポーツ振興会が発足当初から、活動の基本理念として掲げ、持ち続けてきたはずの、「すべての障害のある人々にスポーツを！」という言葉

合言葉に、スポーツ活動にチャレンジしてもらえ、環境を構築し、整備するたために、企画するスタッフみんなが意識を持ち、地を這え、回り回るようにして、府内各地に活動を展開し、広げていったのです。そして、今日の「障害者スポーツのつどい」などが府内全域に、しつかりと根づいているのです。この「つどい」

のような基幹事業も、ただ単に場所を確保すれば良いというものではなく、自分の自由な時間を潰すというか、生活のサイクルの中に取り込むというか、地道に活動をしていくか、地人たち（スタッフ）がいて永年守り続けてくれたこそ、つづけて来たのです。しかし、これらの事業を、黙って支えて来てくれている人たちの姿は、多くある事業の中では目立たない存在となり、古くから関わっている者でさえ、頭の隅からも飛んでしまっているように思えるのです。

これでよいのでしょうか？

私は、最初からずっと立ち会ってきた者としては、納得の出来ないことばかりなので。このことは、事業に追われ、新しく企画

してくれてきた人に対する指導等が不十分であったことは、否めない事実で反省をしなければなりません。が、原点に返り、誰のために、何を目標に活動するのか改めて考え、活動に取り組んで生きたいものです。

私は、この「つどい」という機関紙が誕生した最初のころにも「人間味ある障害者スポーツ活動を」という題名で連載をしたことがあるが、その中で、振興会の特徴として、良さを味に例えて「カレーのルー」と書いたことがある、これは、振興会の活動には、障害のある人、体育関係の人、福祉関係の人、教職関係の人、行政関係の人、ボランティアの人、家族の人、その他の人等々、いろんな立場の人がいて、それらの人々の持っているスパイスとしての味があるのです。それらのスパイスが持つ特性がブレンドされて、振興会としての味（ハーモニ）を出しているのです。スパイスが多ければ多いほど、ユニークな味が出るのです。が、サジ加減を間違えば、美味にもなるし、食えぬようにもなる事、いうまでもありませんが、現在の味は、特定の扱い易

いスパイスを簡単に使用し、一部の目立つスパイスの味が出た味からは離れつつあるように思います。

新会長の川面氏は、発足当初から創業者に教えを得て、ともに味を作り出したスタツフのひとり。偏り変わってきた味を原点到戻す、スパイス調合のサジ加減に期待するものです。

フライングデイスク 専門部の活動紹介

太田 久雄

4月 日(土)フライングデイスク講習会を、京都市障害者スポーツセンターにて行いました。向日が丘養護学校の生徒や乙訓地域からの参加者等、計 名が集まりました。基本の手の使い方を中心にキャッチアンドリリースの練習、アキュラシーとデイスタンス競技を行いました。また審判の方法を説明しました。女性の方は、スパツプを利かせてデイスクを回転させるコツが少し難しうでした。皆で気軽にワイワイとやっていますので、少しでも関心のある方は、来年是非参加して下さい。

4月 日(日) 時から京都障害者フライングデイスク協会設立記念大会を京都

府立体育館にて行いました。昨年 月より計画し、実行委員会を作り、何度も打ち合わせをいたしました。協会が主催する初めての大会ですので、色々苦労しましたが、京都障害者スポーツ振興会の協力を受けながら大会へと着々と準備を進めました。第一に参加者が集まるかと心配しましたが、定員 名のところに名の応募があり、有難くて安心しました。あれやこれやと思っている内に大会を迎えました。開会式では来賓代表として川面会長に、ご挨拶をしていただきました。次に土橋洋之・上野節子両選手の力強い選手宣誓の後、アキュラシー競技と表彰を行いました。午後からは、デイスタンス競技、表彰式を行い、1・2・3位にはメダル、4位以下には記念品を授与しました。また各競技の記念証を渡しました。表彰式では皆で万歳三唱して大いに盛り上がりました。競技中には京都新聞社の取材があり、翌日の朝刊に写真と記事が載せて頂きました。参加された方には楽しんで頂けたよう、来年もまた出場しますと言って頂きました。選手の皆様、出席頂きました来賓の方々、協力、後援していただいた各諸団体、スタッフ及びボランティアの皆さんお陰様で無事終了することができました。大変有難うございました。また来年も良い大会にしたいと思っております。